



電信通り商店街が販売する予定の4種類の菓子和試食する市民ら

オリジナル菓子試食

電信通り商店街 多くの市民来場

今春販売へ

電信通り商店街振興組合(長谷渉理事長)が今春の菓子製造販売を目的とするオリジナル菓子の試食会が2日午後、帯広市役所11階展望ホールで開かれ、100人を超える

来場者でにぎわった。

菓子の開発は同組合が全国商店街支援センター(東京)の支援を受けて実施。昨年、商店街に移転した菓子製造販売の「ぶどうの木」が開発を担当し、十勝産の牛乳、チーズ、豆を使った

菓子を製造した。

この日用意されたのは「畜大カマンベールのチーズケーキ」「畜大牛乳と十勝あずきのパウンドケーキ」「畜大カマンベールのクッキー」「十勝音更産きなこのポーロ」の4種類。午後1時の試食開始前から多くの市民や市職員らが列をつくった。

試食した来場者は十勝圏振興機構(とかち財団)開発の「抹茶オーレ」を飲みながら、食感や甘さ、食べやすさなどのアンケートに記入した。アンケートは商品の改良やパッケージ作り生かす。

帯広市内の澤井玲子さん(81)は「きなこポーロがちょうど良い甘さで気に入った。(きなこの原料の)大豆は健康にいいので、友人にも買って振る舞いたい」と話していた。(深津慶太)